



カレンダーを見ると、今年の立春は2月3日、つまり今日(2月3日)になっている。

立春の一日前が節を分ける節分。

通常節分の豆まきは2月3日、立春は2月4日、というのが決まり事だと思っていたら、今年はずか2月3日が立春。実はこの一日の誤差、

江戸時代ならこんな事態は起こらない。新旧時刻のとりえ方に、若干の齟齬そごがあるからだ。現代でも季節を区切るために使われる二十四節気は、太陽の黄道くわだう上の動きを24等分しておよそ15日ごとに分けた季節の配分。

春分を黄経0度としてそこから15度ずつ数え始めると、立春は315度。

国立天文台の暦計算室によれば、これを中央標準時に置き換えると2月3日23時59分になる。今年はこの時刻が立春なのだ。現代の時刻感覚では、新しい日が始まるのは午前0時。今年立春を迎えるのが1分早いのである。この1分の違いで、2月3日となってしまったわけ。しかし近代以前の日本ではこれは起こらない。十二支を一日の時刻に割

り振るいわゆる十二辰刻を採用していた江戸時代。一刻あたり2時間。一日の始まりは子の刻。この子の刻は実は23時から翌日1時までを指していた。すなわち2月4日は2月3日の23時から始まっていたわけだ。だから何の問題も起きない。

新暦と旧暦をいっちゃんにして使っていると、時々こういふことが起こる。(博)

1. 毎年2月3日が「節分」と思われがちですが、2月3日だから「節分」だと決められているわけではありません。では、どのような基準で「節分」は決められているのですか。

立春の1日前(前日)

2. 2021年の立春の時刻は何月何日、何時何分でしたか。

2月3日23時59分

3. 今年の「節分」が2月2日になった理由は何だと述べていますか。

今年は立春を迎えるのが1分早かったから。

4. 江戸時代では「十二辰刻」を採用していたので、今年のようなことは起こらないといえます。それはなぜですか。

23時から翌日1時までが子の刻(一刻)であり、23時から新しい日が始まっているから。

5. 江戸時代では、2月3日23時59分は、何月何日ですか。

2月4日

6. 現代では、2月3日23時59分は、何月何日ですか。

2月3日

7. 十二支を順番に書いてみましょう。

子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥

8. 「十二辰刻」で「申の刻」とは、何時から何時ですか。

午後3時～午後5時

9. 「十二辰刻」で「丑三つ時」とは、何時から何時何分ですか。

午前2時～午前2時30分



- 丑一つ(1時～1時30分)
- 丑二つ(1時30分～2時)
- 丑三つ(2時～2時30分)
- 丑四つ(2時30分～3時)